

2022年度基本方針に沿って総括する。

### 【次代の築き上げる力強い組織づくり】

組織において「理念」とは組織の存在意義や使命であり、私たちが一番に大事にしていかなければならないものである。何のために組織が存在しているのか、自分たちは何を目的として存在をしているのかを会員一人ひとりが理解しなければ組織として成り立たず、さらに、入会をしても自分たちが何をしたいのかもわからずに、活動に参加してもらえなくなる。特に本年度は新入会員にそれらを伝えることができずに活発的に活動をしてもらうことができなかつた。右も左もわからない新入会員に対して所属する委員会だけでなく、紹介者を通じて参加する意義を伝えていかなければならない。

また、私たちの理念を共感拡大させる取組みを行ってきたが、入会から卒業まで活動期間が短くなっている現状で、事業や新入会員のセミナー以外でも青年会議所の良さやこれまでの歴史を共有する場を設けることができれば、より会への参加意欲が高まり、自分たちの組織に誇りを持つことができ、自ら会の良さを伝えられる人財へと繋がったものと考えられる。また、本年度は福島ブロック協議会の会長をはじめ多くの出向者を輩出した年となった。JCIいわきを代表して出向している会員に、会として全面的にバックアップをしていかなければならない年であったが、福島ブロック協議会の事業や各種大会において参加する会員は出向を経験した会員にほぼ固定化されてしまった。多くの会員の参加を促せなかつた要因としては、出向経験がない会員に対して出向をして何をしているのか、なぜ出向をしているのかを伝えられず、巻き込むことができなかつたことが考えられる。次年度以降もJCIいわきから多くの会員が出向するが、是非とも出向者を支えられる会員の増加と本年度の経験と機会を活かしてJCIいわきの組織力強化や自分達の活動へと繋げてもらいたいと願っている。

### 【未来を考えられる青少年の育成】

現代社会において、わからないことがあればスマートフォンやパソコンで調べればすぐに知ることができる。しかし、上辺だけの情報だけでそれが真実とは限らない。物事の本質まで理解していくためには自分たちの知識や経験が必要となってくる。そのためには様々なことに興味関心を持って自ら進んで理解をしようとする行動が重要となってくる。

近い将来、AI等の技術により私たちの仕事や生活は大きく変わろうとしているなか、私たちや子供たちは何も知識や理解がないまま生活をしていくとAIに支配されてしまう恐れがある。そんな時代背景のなか、本年度は最新の技術に触れ、様々な知識や体験をしてもらい子供たちの興味関心を抱くきっかけを創出する運動を展開してきた。そして、これからの時代を生き抜いていく子供たちを明るい未来へと導いていくためには、私たち大人も様々な経験を積んで知識を得なければならぬと考える。

また、子供たちの未来を考えている組織は私たちだけではないので、様々な組織や行政とも連携することで地域全体として子供たちに夢と希望が溢れる明るい未来へと導くことができる運動を展開していくことができれば、私たちが目指す「明るい豊かな社会」へと近づいていくと確信している。

### 【共創によるいわきの創造】

新型コロナウイルス感染拡大から3年が経過した今、まちを活性化させようと様々な団体が事業やイベントを再開させた年となった。そして、各地でまちづくりの一環として再開が発が行われ、様々な施設の建築が行われるようになり、これから様々な形でまちづくり団体を中心にしてまちに賑わいを取り戻していくと確信をしているが、大事なのはそこに住み暮らす市民の皆様が地域に想いを寄せているか、愛しているのかということではないかと考える。特にこれからの若い世代にそれがなければ地域を離れてしまい、離れても自分たちの地域に愛がなければ帰ってこなくなってしまう恐れがあると考え。地域により想いを寄せられるよう、若い世代の方にまちを好きになってもらえるように本年度は市内の5団体の各まちづくり団体と連携をして運動を展開してきた。さらに、次年度以降もより地域を巻き込み、そして、もっと若い世代を中心とした運動を展開してもらい、このいわきに住み暮らす皆様とともに夢が溢れるいわきを創り上げてもらいたい。

各地域にある公共施設の利活用として「スポまっちいわき」の推進を昨年に引き続き各スポーツ団体にむけて運動を展開した。私たちの運動に多くのスポーツ団体に共感を得て頂き登録をしてもらうことができたが、公共施設を利用してもらうまでには至らなかった。しかし、本年度は新しい方向性が見つかった年であった。「スポまっちいわき」をいわきのスポーツ情報発信媒体として展開していくことだ。サイト名は変わるかもしれないが、「スポまっちいわき」を見ればどんな大会を開催しているのか、どんなチームがいわきにあるのかを一発で知ることができるサイト内容である。そして、将来的にサイトを通じていわき市外のチームに合宿場としていわきを選んでもらい、公共施設を利用してもらうことができれば私たちの運動へと繋がることができると考えられ、今後の運動の展開が楽しみである。

東日本大震災から11年、令和元年東日本台風から3年が経過しようとしている。本年度は、災害時における協力協定を結んでいるいわき市社会福祉協議会及びいわき市と災害時の連携を円滑にするために、顔の見える関係性を築き上げる取組みを行った。3月16日に発生した地震の対応するためにいわき市の方は参加することが叶わなかったが、いわき市社会福祉協議会とは今後は共同で事業を開催し、より市民に防災・減災に対する啓発活動を行っていきましょう。と、話し合うこともできより良い関係性が築き上げたと考えられる。何のために協定を結んでいるのか、災害が起きた時には私たちはどのように動けばよいのかを訓練する事業など様々な形で連携をとりながら、共に市民に対する啓発を行い、私たちが経験をした辛かった災害を思い出にすることなく、これから生き抜いていく子どもたちにも教訓として残せるものにしてもらいたいと考える。

### 【時代に即した組織運営】

2020年から時代は大きく変わった。集まることを許されない、何も行動しないことが社会のためになるという状況だ。しかし、私たちJCIいわきは明るい豊かな社会を目指し運動を展開して、活動を行ってきた。本年度は参集して事業や会議を行えると思っていたが、3年が経過した今でも参集を許されない状況もあり不安になる時期があったが、これまでの経験を活かし、WEBを使用し、事業に参加したくても参加できない会員に向けてハイブリッド開催をして誰も取り残さないように運動を展開してきた。そして、WEBではいつでもどこでも気軽に参加することができる、参集は顔を見ながら緊張感のある会議や会議外での会員同士のコミュニケーションが取ることなどWEBの良さや参集の良さをしっかりと理解することができた年であると感じる。これからは、参集が許されない状況は終わりを迎えると思うが、今後どんな状況や変化にも対応することができる組織であり、何よりも会員の事を一番に思い組織を運営してもらいたいと考える。

また、私たちの運動は地域に発信していかなければ、地域から共感を得ることが出来ず、活動をしている意義が見出せなくなる。より地域に情報を発信していくために情報発信媒体を公式のSNSやホームページだけでなく、新しく地域情報発信のホームページを使用して広く発信を行った。SNSのフォロワー数に伸びは見られたが、ホームページや地域情報発信のホームページの閲覧数はあまり伸びなかった。要因としてはSNSの全体としての総登録数の増加や、登録してあれば検索をしなくても気軽に見ることができるSNSにて情報

を得る方が増えたことが考えられる。常に情報は更新され、古い情報は見られなくなっている現状で常に様々な情報を発信して、私たちの運動が地域に届かず、共感を得ることができなくならないように新しい情報を常に発信してもらえることを願う。

### 【結びに】

本年度は「希望溢れるいわきを創造しよう～想いが未来を切り拓く～」のスローガンを胸に運動を展開してきた。先が見えない暗い状況が続いている社会に、私たちが希望のビジョンを示して明るい豊かな社会を創造していきたい。人を想う心、地域を想う心が原動力となり未来のために行動していきたいという願いでこのスローガンとした。どんなに辛い状況であっても、如何なる時も下を見ることなく、常に前を向いて歩き続けていく姿がリーダーであり、人や地域にとっての希望となると私は考えます。そして、本年度はどんな状況であっても諦めることなく組織により良い影響を与え、地域を巻き込み運動を展開してきたことは間違いなく地域の希望になり、その根幹には必ず熱い想いがあり、原動力になっていたと思う。

これからもどんなに高い壁にぶつかろうとも、挫けることなく、仲間を信じて突き進んでもらいたい。

様々な機会を通じて成長し、地域により良い変化を生み出していこう。

それこそが私たちの使命である。

公益社団法人いわき青年会議所

第18代理事長 松崎慎弥

本年度、松崎理事長の掲げる「希望溢れるいわきを創造しよう～想いが未来を切り拓く～」のスローガンの元、顧問の職をお預かりさせて頂き、実務を伴う訳ではありませんでしたが、様々な役職経験を元に、各委員会が創る運動のサポートをさせて頂きました。

まずは、本年、福島ブロック協議会へブロック会長として出向させて頂いており、なかなか LOM の会議や事業に参加が叶わず、自分自身、もどかしい気持ちを抱えながら、出来る限りは参加をさせて頂いた中で、厳しい意見を出す役割を演じ、過去の経験則から若い理事・役員へ事業構築の根幹である JC 運動の意味や意義をお伝えさせて頂きました。まだ経験浅い会員が多い事もあって、全てを伝え、理解して頂くまでには至りませんでしたが、各委員会、特に委員長の皆様の成長を感じることが出来て、少しは役に立ったのではないかと思います。そして、福島ブロック協議会へ出向するにあたり、JCI いわきから出向する多くの役員、出向者と共に福島県内各地を共に歩き、様々なまちや人、そして、県内 18LOM の会員との交流を通して、多くの経験をさせて頂きました。特に、事務局・財政局には今後の JCI いわきを背負っていくメンバーを選ばせて頂き、1 年間のブロック役員の要職を担うことで今後の JCI いわきの礎となれる人財へと成長してくれました。出向の機会とは人を大きく成長させる場所なのだと改めて認識致しました。しかしながら、福島ブロック協議会初め、日本本会、東北地区協議会が主催する事業などへの参加促進をしなければならない立場であったにも関わらず、参加する意義や目的を JCI いわきのメンバーへ周知することが出来ず、松崎理事長に大きな負担を背負わせてしまった事は大いに反省すべきところです。「機会の提供」とは、提供する側が最大限の努力をしなければただの押しつけになってしまう事を忘れずに、これから出向されるメンバーはその点に配慮して行動することを切に願っております。

結びに、本年 1 年間は松崎理事長を初め、多くの皆様のご理解とご協力の下、福島県内のみならず、全国各地へと行かせて頂きました。本年得た知見を JCI いわきの皆様へ還元致します事をお約束申し上げ、顧問年間報告とさせて頂きます。1 年間ありがとうございました

未来創造委員会は「未来を担う青少年が成長するための機会の創出」、「未来を担う青少年への意識醸成」、「未来に繋ぐ地域資源の推進」の3つを念頭に活動・運動をして参りました。まずは、現代社会において技術革新が進み、AIやIoTが実装され、私たちの生活や働き方に大きな変化を与えています。我々だけでなく、未来を生きる子供たちもこの変わりゆく社会の中で、それぞれの価値観を見つけ、知り得た知識を活用するために、自ら考え、行動しなくてはいけないと考え、最新の技術に触れることで、技術に対する興味関心を抱き、主体性を育む「きっかけ」を創出しようと運動を展開してきました。9月に開催する青少年事業に向けて4月に、「最先端の『今』に迫る！～学校は教えてくれない～」激動の4月例会を開催し、ここでは青少年を取り巻く最先端技術の現状を学びまた体験することで、9月の青少年事業への意識を高めることができた例会となりました。そして9月25日に、いわき市内の小学生を対象に「わくわくNEXTチャレンジ」と題し子供たちの持つ興味、関心を抱く「きっかけ」を創出できるような事業を新型コロナウイルス感染症対策のもと、無事開催することができました。ここでは様々な最新技術を体験できる、DigSports、IoTボール、GoCube、ドローン、また最新ドローン展示コーナーを設置し、約300名を超える来場者があり、多くの子供たちに、「きっかけ」を創出できた事業になったと考えます。この成功も我々JCIいわきメンバーをはじめ、後援や多くの協があつてのことだと思えます。次年度は更にブラッシュアップされ、多くの子供たちに体験の重要性やレジリエンスを高められるような事業へ発展することを願います。

2つ目に「未来に繋ぐ地域資源の推進」として公共施設の質的価値を新たに見出そうと、JCIいわきで2021年7月にスポーツマッチングサイト「スポまっちいわき」を引継ぎ、1年間通して推進してきました。結果、目標であった30件の登録チームの増加を上回る、40件の増加となりこれも関係諸団体へのPRや実際に大会やイベント及び練習などに直接足を運び、登録を促せた結果だと考えます。このサイトを今後、スポーツに関する全ての情報が取得できるポータルサイトになっていくと、より公共施設の質的価値だけではなく、いわき市のスポーツにより人や街が活性化していくと考えます。連携団体として、スポーツによる人・まちづくり推進協議会やいわき商工会議所様などを巻き込んで連携していくことにより、当該サイトを通じて新しい、「スポーツをきっかけとしたいわきの創造」に繋がると思えます。次年度以降、視野に入れ推進していただければと考えます。

最後に本年度、副理事長として1年間やってきて、様々な協議会や関係諸団体との打ち合わせなど本当に貴重な経験をさせていただきました。どの団体もどの協議会もこの「いわき」をより良いまちにしようと考え行動している姿を目の当たりにし、私自身も多くの学びを得られた年となりました。また入会して間もない委員長でしたが本当に責任感が強く職務を全うする姿に心が打たれ、感動と感激をもらいました。そして、委員長の背中を見て一つにまとった委員会を担当できたこと誇りに思えます。これも理事をはじめ、多くのJCIいわきメンバーに支えられてきたからこそ、だと思えます。全ての皆様に感謝申し上げ年次報告とさせていただきます。

副理事長 佐藤 稔久

本年度組織拡大研修委員会では、理事長が掲げる基本理念『想いを繋ぐ人財による力強い「いわき」の創造』と、スローガンである『希望溢れるいわきを創造しよう～想いが未来を切り拓く～』のもとに、会員の成長を促すための機会の創出、全会員の成長によるたくましい組織の確立、運動を支えるための組織力の強化、という3つの運動方針に沿い外部の方の協力も得ながら委員会、そして新入会員たちと共に運動を展開してまいりました。

まず、2月の例会事業として、JCの理念について共有化を図るWEBセミナーを行い、JC運動の根本となる部分について学びました。社業にも役立ち、年度初めの事業としてJC活動に対しての意識向上を図ることができました。そして、6月例会事業では地域を牽引することができる人財を増やすことができるよう、本会公式プログラムである「Effective Leadership」のトレーナーをお招きし、リーダーシップを発揮する方法を学びました。合わせて各個人のリーダー像を描いてもらうことで、今後のJC Iいわきの組織力向上につなげることができたと考えます。さらに、11月例会では、新入会員が創り上げる初事業として、次年度以降を見据え交流を図り、準備段階から成長する機会をつくりました。そして、本年は公開委員会を3回実施しました。それぞれ外部の方々のご協力のもと、会員個々人の学びとなるようなものから、近年減少傾向である交流も交えながら組織全体の結束力を高めるために行いました。さらに、年間を通じ組織全体で会員拡大活動を行い、目標には届きませんでした。が本年度入会数は15人となりました。

近年、会員数の減少や出席率低下で組織力を維持するにも困難な年が続いております。しかし、こんな時だからこそ基礎の部分が重要となります。今年委員会が行った事業が次年度以降の運動強化につながっていくことに確信し、年間事業報告とさせていただきます。

## 2022年度 公益社団法人いわき青年会議所 副理事長年次報告

副理事長 熊田 哲也

地域連携委員会では、本年度スローガンである『希望溢れるいわきを創造しよう～想いが未来を切り拓く～』のもと、運動方針である「市民主体のまちづくりの推進」と「災害に強いまちづくりの推進」の実現に向けて運動を展開してまいりました。3月例会では、協定を締結している関係諸団体との関係構築と、会員の支援する側としての当事者意識を醸成することを目的に、JCI いわきの災害組織図の内容も含めた災害に関する知識を習得と災害時に支援する側としての「当事者意識」を醸成するゲームを実施しました。残念ながら、直前に発生した地震によりいわき市危機管理部の皆様にはご参加いただくことは叶いませんでしたが、JC 会員といわき市社会福祉協議会の職員の皆様と共にクイズやゲームを行うことで楽しく交流を深めるとともに、顔の見える関係性の構築と意識の醸成に繋がったと考えます。9月例会では、危機管理意識の醸成を促すことを目的に、危機管理の重要性を再認識するために、コロナ禍で会員が実際に直面した危機を、実例として会員全員で共有し、模擬記者会見を行いました。危機に直面した際の想定や、どのような備えが必要であるかを自分ごととして捉えることができました。この事業を通して平時からの備えが重要であることの認識とシミュレーションや行動指針・危機対応マニュアル策定のきっかけに繋がったと考えます。

最後に、第2回イルミエールいわきは、昨年生まれ変わった冬の風物詩をさらに発展させるべく、開催場所を拡大し、いわき駅前他に、常磐・内郷・小名浜・21世紀の森公園の関係諸団体の皆様と共催という形で展開しました。第2回イルミエールいわきでは、いわき市民を巻き込むために、いくつかの新しい試みを実施させていただきました。いわきの逸品を返礼品とした購入型のクライドファンディング、委員会で宣伝素材を作成し、いわき駅前ビジョンを活用した広告宣伝、各地の特色をイルミネーションで表現したモニュメントの設置。こちらは高校生を中心に新たな「映えスポット」を生み出すことができました。そして、12月3日には5エリア同時点灯式をライブ中継という形で実施しました。大きなトラブルなく、いわき駅前を中心として各地会場をトークの掛け合いで繋ぐことで今までにないエンターテイメント要素を取り入れた点灯式となり、市民へ「イルミエールの魅せ方」を示すことができました。より一層「市民の皆様と共創のまちづくり」の推進と、より地域の皆様から愛され、親しまれる冬の風物詩になったと考えます。

次年度以降も防災・減災に関しては地域から選ばれる組織となるための組織力強化、イルミエールに関しては今年広めた「イルミエールの輪」をさらに広めていくことで各地域の活性化に繋げていく運動を展開することを確信し、地域連携委員会担当副理事長としての年間事業報告とさせていただきます。

本年度、松崎理事長が掲げた『想いを繋ぐ人財による力強い「いわき」の創造』と、スローガンである『希望溢れるいわきを創造しよう～想いが未来を切り拓く～』のもと、組織運営の基盤である事務局・財政局、そして総務広報委員会をお預かりし、いわきJCの業務執行理事として1年間務めさせて頂きました。本年度は、在籍の短期化により経験豊富な会員が減少しているなかで、時代に即した運動を展開できるよう次代へと繋がる強い組織づくりを目標に活動をしてまいりました。

まずは、公益法人として運営の中心となる理事向けにセミナーを開催しました。公益法人として守るべき法律を知り、組織体の基礎に関する知識を、理事を中心に伝える事ができたと考えております。今後も法人格の維持のため、形を変えてでも知識の継承を行って頂きたいと思っております。また、スムーズな会議運営のため、アジェンダシステムの事前意見と対応、その期日管理を徹底し、会議前に様々な意見を出す事で、会議時間の短縮を図りました。事前意見出しについては、会議によってバラつきがあり議案のチェックに時間をかけられるよう、理事は各々向き合っていけるようにしてもらいたいと思っております。そして、組織改革の一環として、定款の改訂を実施しました。JCI いわきの規模が小さくなる中で、そのサイズ感に合わせた組織運営が出来るよう、常任理事を廃するなどの改訂を実施し、総会にて議決頂きました。これからの組織運営に対して一定の貢献が出来たものと自負しております。また、公益事業比率の維持をはじめとして、キャッシュフローの計算、未回収会費の積極的な回収など、適切な財務運営に努めました。そして、福島ブロック協議会をはじめとする関係団体との連携について、連絡調整を行いながら、会員の皆様に参加してもらえるように情報を共有させて頂きました。JCI いわきとして日本本会や福島ブロック協議会との連携は必要不可欠であり、重要な事となりますのでこれからも、会員が関われるように運営をしてください。

最後に、専務理事を務めていくなかで、今まで自分が意識してこなかったガバナンスの意義、事務局・財政局といった影から組織を支える部門の重要性を、強く認識する事になりました。その学びを今後のJC運動やJC活動に活かしていきたいと考えます。そして、今まで支えて頂いた会員の皆様に多大なる感謝を申し上げ専務理事年間報告をさせて頂きます。1年間、ありがとうございました。

常任理事長 松原 兼宏

本年度は松崎理事長の掲げる「想いを繋ぐ人財による力強いいわきの創造」の基本理念と「希望溢れるいわきを創造しよう～想いが未来を切り拓く～」のスローガンのもと出向特別室担当 常任理事として、福島ブロック協議会へ出向いたしました。

WEB 配信ではありましたが2月の新春のつどい、そして福島ブロック協議会最大の運動発信の場である第52回福島ブロック大会 in 二本松、11月に行いました福島ブロックの事業報告会・卒業式をはじめ、各種大会、様々な LOM 支援の場で松崎理事長はじめメンバーの皆様に多大なるご協力をいただきましたこと、誠にありがとうございました。福島ブロック協議会会長の輩出に伴い、私を含め多くのメンバーが出向の機会に恵まれました。

私自身初めて出向させていただきましたが、県内外様々な方と知り合い新たな刺激を得られたこと、様々な事業に参加し新しい学びや気づきを得られたことは、出向なくしてはありえませんでした。また、他の LOM を知ることはいわき青年会議所の魅力に改めて気づけたり、逆に 取り入れるべきことなどにも気づくことが出来ました。

この経験を LOMメンバーに余すことなくお伝えし、出向に対して前向きな LOMとなるよう 尽力していきたいと思えます。

最後となりますが、この貴重な機会を与えていただきました松崎理事長はじめ、出向での活動を支えてくれたメンバーの皆様に心より感謝いたします。1年間ありがとうございました。

常任理事長 小野 卓也

本年度いわき青年会議所では、松崎理事長の掲げる「想いを繋ぐ人財による力強いいわきの創造」の基本理念、そして、「希望溢れるいわきを創造しよう～想いが未来を切り拓く～」のスローガンのもと、総務広報委員会担当常任理事として活動いたしました。

まず、新年会を計画しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により現地開催が困難となり動画配信及び冊子による活動報告、運動方針発表、役員お披露目を行いました。そして、年間を通して広報を行いました。本年度はホームページ、Instagram、Twitter、Facebook の他に、ぐるっといわきと連携をして、事業、例会の広報を行いました。また、5月例会では、メディアを活用した広報活動として、パブリックリレーションズ協会より鈴木孝徳講師をお招きし、PR（パブリックリレーションズ）について勉強をいたしました。そして、昭和57年組11名の卒業式、感謝ナイトをいわきワシントンホテルにて、実地開催をいたしました。

式典の新年会についてはWEBを用いて、運動方針等を効果的に発信でき、ノウハウの蓄積もできたと考えます。卒業式・感謝ナイトについては、リハーサル・準備を入念に行った結果、大きな問題もなく卒業生を送り出せたと考えます。また、広報活動では、ぐるっといわきと連携をしてJCIいわきを発信しておりましたが、目標であったフォロー数には及ばず、課題が残りしました。

新任の委員長を始めとした委員会と共に活動をさせていただき、委員長の努力の元、最後は委員会一丸となることができ、1年の活動を終えることができました。委員会、そしてJCIいわきメンバー皆さまに感謝を申し上げ、私の年次報告とさせていただきます。

2022年度 委員会年間活動報告書

■グループ名		■専務理事	高橋 大吾	■常任理事	小野 卓也
■委員会名	総務広報委員会		■委員長	小野 貴弘	
■副委員長	佐久間 順也		■副委員長	鈴木 幸始	
■運営幹事	新妻 美沙		■会計幹事	山口 宗之	
■委員	井塚 雄三	鈴木 隼人	若松 佑樹	須貝 公一	鈴木 拓也
	佐藤 充	平子 善一			

■委員会スローガン 楽しく、明るく

委員会設置背景と目的

委員会設置背景

コロナ禍やJCメンバーの在籍年数の短期化などの要因によってJCIいわきの組織力が低下し、我々の運動を展開する力が削がれています。

JCIいわきが、組織として運動を展開し、街を変えていける団体であり続けるためには、急激に変化していく時代に合わせながら、スムーズな組織運営を行い組織力を維持すると共に、いわき青年会議所の運動を、広く市民に伝えていく必要があります。

目的

時代に即した組織運営を行い、JCIいわきの組織力を高めると共に、広報活動通して市民との関係性を深め、運動発信の基礎を築く事を目的とします

■委員会基本方針

- ①新年会の企画・運営
- ②卒業式・感謝ナイトの企画・運営
- ③事務局と連携したいわきJCのホームページの運用およびシステム管理
- ④会議・委員会と連携した情報の発信
- ⑤いわきJCホームページの運用およびシステム管理
- ⑥活動における各種情報の発信と検証・検証・整理
- ⑦WEBを活用した情報発信の調査・研究・検証
- ⑧会員拡大につながる情報の収集・集約
- ⑨社業に繋がる活動

■開催事業

日時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所2022年度新年会				
令和4年2月10日 (木) 13:00~3月 10日(木)12:00 ※WEB公開期間 (動画配信期間)	[開催場所]	WEB配信				
	[事業種別]	他1	[公益性]	無	[対象者]	正会員、特別会員、関係諸団体、旧5JC及びいわきJCOB会員、来訪JC、外部アドバイザー
	[事業趣旨]	2022年度の運動方針、組織を発信することで、関係諸団体やOBの方々に理解をいただき、本年度の運動、活動にご協力していただける関係性を構築すること並びに、日頃の多大なる協力に対して感謝の意を伝えることを目的としました。				
	[事業内容]	<公益社団法人いわき青年会議所2022年度新年会の開催(WEBにて配信)> ・2021年度の活動報告。(スライド映像) ・2022年度の運動方針発表(松崎理事長挨拶) ・祝辞(副会頭 麻生 将豊君、2022年度福島ブロック会長 斉藤 和治君) ・2022年度役員お披露目。 <冊子の作成と配布> ・新年のご挨拶(松崎理事長) ・理事長所信の掲載 ・祝辞の掲載(いわき市長、福島県いわき地方振興局長、いわき商工会議所会頭) ・委員会メッセージ				
日時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所2022年度広報計画				
	[開催場所]	無				

2022年1月1日 ～ 2022年12月31日	[事業種別]	他1	[公益性]	無	[対象者]	いわき市民
	[事業趣旨]	公式HPやSNSを使用しCIIいわきの活動や運動を地域や関係諸団体へ広く周知させることを目的としました。同時に会員には広報を行う事業や活動での姿勢や行動に責任感を持ってもらうことを目的としました。				
	[事業内容]	<各種広報活動> ・公式ホームページの管理(都度更新) ・SNSを用いての情報発信(Facebook、Instagram、Twitter) ・ぐるっといわきを使用したの情報発信				
日時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所5月例会「メディアを活用した広報活動～PR(パブリックリレーションズ)を知る～」				
令和4年5月17日 (火) 18:30～20:40	[開催場所]	いわき産業創造館 企画展示ホール(ラトブ6F)				
	[事業種別]	他1	[公益性]	無	[対象者]	いわき青年会議所正会員、特別会員
	[事業趣旨]	パブリックリレーションズを学ぶことにより、これからの「メディアを活用した広報活動」において、一方通行の広報ではなく、受け手と双方向で作り上げる、より共感を生む広報を行える人材を育成することを目的としました。				
	[事業内容]	・第一部 講演(講師 鈴木 孝徳様より「メディアを活用した広報活動」と「PR(パブリックリレーションズ)の考え方」について) ・第二部 グループワーク(架空の飲食店をPRを活用してどのように広報すればよいか話し合い、発表)				
日時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所2022年度卒業式及び感謝ナイト				
令和4年12月11日 (日) 卒業式 :開会時間:16:00～ 感謝ナイト:開会時間:19:00～	[開催場所]	いわきワシントンホテル椿山荘 アゼリアA、B、C				
	[事業種別]	他1	[公益性]	無	[対象者]	いわき青年会議所OB会・いわき平青年会議所OB会・勿来青年会議所OB会・常磐青年会議所OB会・内郷青年会議所OB会・磐城青年会議所OB会・正会員・特別会員
	[事業趣旨]	卒業会員がこれまでにOBの先輩方より受け継いだ想いを以て、活動や運動を興し、成長した姿を見届けていただき、この場に立会い、卒業を祝福していただく事を目的としました。また卒業会員にはJCIいわきでの最後の事業として、これまでの足跡を現役会員へ引き継いでいただき、また、現役会員に於いてはその想いを理解し、しっかりと応え、今度の活動や運動へ繋げていく事を目的としました。				
	[事業内容]	<卒業式、感謝ナイトの開催> ・花束贈呈、卒業証書授与、卒業会員よりメッセージをいただきました。(9名参加) ・送辞、答辞を実施しました。 ・記念品の贈呈を行いました。 ・懇親を深める場を設けました。				

## ■年間計画の実現と成果

年間計画に関して概ね計画通りに進めることが出来たと考えます。新年会：新年会に関しては審議通過後に新型コロナウイルスの拡大により、昨年と同様にWEB配信となりましたが、冊子の配布等により効果的に2022年度体制の発信を行えたと考えます。広報推進：公式HPや各種SNSで広報を行いました。また本年度はぐるっといわきにHPを作成して広報を行いました。広報内容については会員目線になってしまい、市民がわかりやすい内容になるように工夫が必要であったと考えます。五月例会：パブリックリレーションズに関しての講演を行った後に、グループワークを行い、意見を出し合う事で知識を身につけられたと考えます。しかし講演内容が当初の打ち合わせと差異があったため、講師との打ち合わせは当日も必要であると考えます。卒業式：11名中9名の参加で、全員の参加は出来ないままでしたが、卒業生を盛大に送り出し、卒業生の想いを会員は引継ぎすることが出来たと考えます。

## ■次年度以降への引継ぎ事項

新年会、卒業式に関してはその年の特色を入れ込んで開催すると新鮮な式典になりますので、できるだけ特色を入れるようにしてください。また特色を入れる場合は、一般常識に則って来賓や参加者に失礼がなくいわきJCの信用を失わないものにしてください。広報推進に関しては、投稿スピードと頻度を上げて各種SNSと公式サイトを活発にしてください。また、投稿内容も実施背景を詳しく書くなど、市民目線に立って記事作成を行う事で、事業やいわきJCを全く知らない方に理解しやすくなります。また、撮った写真も次年度に引継ぎ、卒業式や新年会などで使用するの、たくさん撮影するようにしてください。五月例会では会場の閉館時間と例会終了時間が10分しかなかったため、かなり無茶な撤収作業になってしまいました。会場選定の際は、閉館時間を考慮して、事業が長引いた際のことと考えて計画するようにしてください。

## ■委員長所見

1年間を通して至らない点は多々ありましたが、各種事業や大会に積極的に参加することにより、JCやその他団体に関して知見を深めることが出来たと考えます。また理事の立場上責任感をもって活動に参加できたと考えます。至らなかった点としては委員会全体を巻き込んだの活動ができなかったことです。メンバーとは事務的な連絡のみになってしまい、上手にコミュニケーションが取れず、結果として一部の委員会メンバーのみに仕事を振る状況となってしまいました。機会の提供を行う面からも、仕事を割り振ったり、事業へ参加してもらう事は必要であり、その他面はメンバー1人ひとりが活動、運動に参加しやすい委員会環境を構築することが大切だと痛感いたしました。次年度以降では、本年度学んだことを生かしながら運動、活動に励んでいきたいと思えます。

2022年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	■副理事長		佐藤 稔久		■常任理事	
■委員会名	組織拡大研修委員会			■委員長		三浦 雅裕
■副委員長	小菅 悟			■副委員長		柴田 真琴
■運営幹事	高野 洋平			■会計幹事		大滝 真優
■委員	佐川 享佑	大坂 行	渡邊 寛樹	庄司 悠樹	近藤 哲史	
	清宮 由雅	滝口 敦	渡部 安彦	小笠原 慶	栗城 佳次	
	藤岡 伊万里	吉田 寛和	庄司 雄太	木村 敏史	小林 豊	
	鈴木 篤	小澤 楓	有馬 悠二	木皿 将央	渡辺 勇樹	
	細矢 順平	佐藤 亮介	松本 進	高宮 暢昭		

委員会設置背景と目的

委員会設置背景

JCIいわきの会員数は現在減少の一途を辿っており、その要因の一つとして、入会からの在籍年数が4年未満という会員数が多く、組織の存在意義や考え方の理解が全体でできていないためにJCの魅力伝えることができていないことがあげられます。今後も組織として運動を展開し地域により良い変化をもたらし、地域にとって必要な人財、組織としていくためにも人財の育成並びに組織力の強化を進めていく必要があります。

目的

JCIいわきの魅力を共感し発信していくことができる人財を増やすことを目的とします。

■委員会徹底事項

委員会は通常1時間～1時間半程度とします

委員会メンバー、会員の成長はもちろん、楽しい事業を提供していく

出欠確認は必ず返答する

会員拡大につながる委員会内での情報収集

■開催事業

日時	事業名	2月例会「理念とはなんぞ」			
令和4年 2月15日(火) 19:00～21:20	[開催場所]	WEB			
	[事業種別]	会員研修事業	[公益性]		[対象者]
	[事業趣旨]	質の高い事業を行っていくためには、各個人が運動を行う意味や意義を理解する必要があると考えます。その対策として、例会や事業を通して会員の成長を促したり、JCの運動に参加することで様々な事業内容を知る。といった対応があります。しかし、まずは会員1人ひとりが理念を理解、共有することで共感を得ることが必要だと考えます。どんな事業や例会をするにも理念に沿って進められています。その部分がズレてしまっている良い結果には繋がりません。本事業におきましては、理念とは何なのかということを学んでいただきます。			
	[事業内容]	アチーブメント株式会社様より「理念とは」について講演をしていただきます。講演の中に委員会でご提案した一般の方に理念を説明する実践的時間の機会をお願いいたしました。			
日時	事業名	6月例会「リーダーシップとはなんぞ」			
令和4年 6月7日(火) 18:30～21:30	[開催場所]	いわきFCパーク 3F レッド&ブルーカフェ			
	[事業種別]	会員研修事業	[公益性]		[対象者]
	[事業趣旨]	JCIいわきのメンバーが理想のリーダー像に対して必要となる資質を明確にし、JCIいわきの組織内、そして会社や社会でリーダーシップを発揮できるような人財の育成を行います。リーダーに必要な資質について、各々個人の思い描く理想のリーダー像ともちうる資質を抽出・比較・検証するのは多くの時間がかかります。			
	[事業内容]	今回、JCI日本の推奨セミナーであるEffective Leadershipセミナー(ELセミナー)を活用することで、短い時間の中でも人財育成を効果的に行います。ELセミナーでは、どうしたら理想のリーダー像に近づけるのか、Effective Leadershipでこれまでの体験や身近な例を用いて、JCIのメンバーとして発揮すべきリーダーシップについてディスカッションを行い、様々なリーダーシップを理解していただきます。本事業を実施することで、地域のリーダーとしての自身の理想のリーダー像に対して、必要となる資質を明確に示せるようになり、JC運動・活動のみならず、社業や社会奉仕活動においても役立てることができそうです。			
日時	事業名	11月例会「会員交流事業」			
	[開催場所]	いわき市生涯学習プラザ			

令和4年 11月15日(火) 18:30~20:52	[事業種別]	会員研修事業	[公益性]	[対象者]
	[事業趣旨]	本事業では会員同士の交流を深め、結束力を高めるためにクイズやグループディスカッションを行い、次年度にも繋げられる様な組織作りを図ります。		
	[事業内容]	<p>クイズ及びグループディスカッション グループ内で自己紹介の時間を取っており、クイズやグループディスカッションで意見を出し合いスムーズな進行ができるようにします。 自己紹介でお題を予め定め(今年のあった自分の出来事で一番良いニュースを発表してもらおうなど)自己紹介をしてもらい話しやすい環境作りから始めます。</p> <p>&lt;クイズ&gt;(25分間) 内容については、アイスブレイクも兼ねて場が盛り上がるようなクイズを行います。 卒業生や新入会員にまつわるクイズを出題します。</p> <p>&lt;ディスカッション&gt;(45分間) 提示されたテーマについてディスカッションを行いグループとしての意見を発表していただきます。 発表終了後に自分のグループ以外のどこか1つを選び投票、ポイントの多いグループが最優秀グループとなり賞品をお渡しします。</p>		
日時	[事業名]	公益社団法人いわき青年会議所2022年度会員拡大及び研修計画		
	[開催場所]	いわき市全域		
	[事業種別]	[公益性]	[対象者]	
	[事業趣旨]	近年、会員数の減少や在籍年数の短期化による組織力の低下が問題視されています。会員数100名を上回る事、JC運動において個人の能力をしっかりと発揮できるよう、卒業までの在籍年数が5年以上となる人財を得る事を目標にして会員拡大を実施いたします。また、会員の質向上のために研修活動も合わせて実施いたします。		
	[事業内容]	<p><b>【会員規則とマナー】</b> 会員全員が規則とマナーを理解して会員拡大を行います。</p> <p><b>【拡大手法】</b> 拡大マニュアルを活用しながら拡大リストを精査し、会員全員で情報を共有します。拡大リストには個人情報が多く含まれるため、理事以外への公開は、候補者の氏名・会社名・生年月日・紹介者・備考欄のみとし、アポ取り等に必要情報は組織拡大研修委員会より個別にお伝えします。 ①理事は最低1名拡大を意識 ②各委員会開催時の意識喚起 ③例会・総会・事業等へのオブザーバー参加の推進 ④入会候補者、予定者リストの活用 ⑤OB会との繋がり強化</p> <p><b>【新入会員オリエンテーション】</b> 例会セレモニーの練習、JCのマナーを理解していただきます。</p> <p><b>【公開委員会】</b> 研修の側面を強め、参加者へJCへのメリットを感じてもらいます。 例会、事業等でしか顔を合わせる機会がない他の委員会や三役、OBの方を身近に感じてもらえる設えにします。</p>		
<b>■年間計画の実現と成果</b>				
<p>年間計画については、概ね年間計画に沿って実施することができたと考えます。 年始最初2月例会で「理念」について学び、中間の6月例会では「リーダーシップ」について学び、最後は新入会員が一丸となって次年度に向けて交流を目的とした例会を設えました。 会員拡大活動:目標には届きませんでした。16名拡大することができました。入会後のフォローについては、年初コロナ禍ということもあり、アクティブな会員と非アクティブな会員が2分してしまいました。</p>				
<b>■次年度以降への引継ぎ事項</b>				
<p>拡大活動については、個人の拡大意識を高める必要があります。拡大委員会だけのネットワークでは、限界があるので、他の委員会を巻き込んだ活動が必要と考えます。また、OB会と連携をとることで拡大活動が円滑に進めるので、自身の周りの先輩に声を掛けて拡大をすることが必要と考えます。また、入会してからも、拡大委員会に任せるのではなく推薦者が声を掛けるなどして、例会や事業に連れていくことでアクティブ会員を増やす事につながると考えます。 会員研修事業・例会で、講師をお願いする際は委員会がどのようにやって欲しいのか、これだけは外せないと言うような想いは伝えた方がいいです。時間の都合で講師の判断で実際に行ってほしいことを省いてしまう場合があるので注意してください。</p>				
<b>■委員長所見</b>				

2月例会で「理念とはなんぞ」で理念について学びJCIいわきの理念について考える機会を提供しようとしたが、時間の都合上また講師の判断でJCIいわきの理念についてグループ毎にディスカッション学ぶ機会を提供できなかったことが残念でした。6月例会では「リーダーシップとはなんぞ」で会員メンバーの実体験をもとにリーダーシップを学んでいただきマイリーダー宣言を考えてもらいリーダーシップへの意識醸成を提供できたと考えます。11月例会では、次年度にも繋がるような交流事業を考え、新入会員に例会を設えていただきました。公開委員会も3会行うことができ、様々な学びの場を提供できたのではないかと思います。コロナの感染状況の波で大勢の参加がかなわない場面もありましたが、スタッフ、委員会が一丸となって本年を向き合えたと思います。

2022年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	未来創造委員会	■副理事長	及川 昌哉	■常任理事	
■委員会名	未来創造委員会		■委員長	大和田 勝史	
■副委員長	草野 祐介		■副委員長	佐藤 健二	
■運営幹事	坂本 兼一		■会計幹事	鈴木 祐介	
■委員	八幡 寛明	根本 貴弘	松本 貴宣	石山 秀信	佐藤 修一郎
	内山 数馬	地引 勇太			
■委員会スローガン	委員会メンバー全員が共有ビジョンを持ち、参加したくなるような委員会を目指し共にLOMをそして、いわきを動かそう！！				
委員会設置背景と目的					
<p>(委員会設置背景)</p> <p>①現代社会において急激な速度で技術革新が進んでいます。いわき市においても、2020年10月にソフトバンク株式会社と「Society (ソサエティ)5.0推進に関する連携協定」を締結し、今後ますますIOTやAIといった技術は加速していくことが想定されます。未来を生き抜いていく子どもたちに今のうちから、様々な技術に対し興味・関心を引き出すことが必要です。</p> <p>②いわき市にて公共施設の機能回復を全力で見直している最中、JCIいわきでも公共施設の質的価値を新たに見出そうと、2021年7月にスポーツマッチングサイト「スポまっついわき」が作成されました。しかし、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により広報活動に制限がかかり、登録チーム数や利用者を増加させることができていない状況です。</p> <p>(目的)</p> <p>①最新技術を体験させ、身近に感じてもらい子どもたちが、自ら興味・関心を持ち、もっと学んでみたいという気持ちを創出することを目的とします。</p> <p>②幅広く広報及び周知をお願いをし、登録チーム数を増加させマッチング成立と、実際に公共施設の利用頻度を向上させることを目的とします。</p>					
■委員会基本方針					
<p>①未来を担う青少年が成長するための機会の創出</p> <p>②未来を担う青少年への意識醸成</p> <p>③未来につなぐ地域資源の推進</p>					
■開催事業					
日時	[事業名] 9月青少年関連事業 公益社団法人いわき青年会議所「最先端の『今』に迫る！～学校は教えてくれない～」激励の4月例会				
	[開催場所]	いわき市地域防災交流センター「久之浜・大久ふれあい館」1階(講堂)			
	[事業種別]	公2	[公益性]	有	[対象者] (公社)いわき青年会議所 正会員・特別会員
	[事業趣旨]	9月の青少年事業においては、子供たちが最新技術に興味・関心を持たせるために、AIやIoTといった最先端技術を子供たちが体験する場を私たちが創ります。しかしながら、私たちが、最先端技術に触れる機会が恵まれていない現状にあります。そのため、まずは私たちが体験してみることによって理解を深める必要があり、9月事業に繋げていく必要があります。また、社業にも生かせる内容を組み込み、会員の理解への向上を促進します。			
2022年4月15日 (金)19:00～21:30 (受付 18:30～)	[事業内容]				

		<p>二部構成とし、第一部ではこれまでJCIIわきで学んだAIやIoTのおさらいをし、次に青少年の最先端技術教育の現状について発表し、最後に楽しく学べる DigSports、IoTボールについての説明を委員会研究発表とし実施します。第二部では、IoTボールを会員自らが体験してもらいます。また、新型コロナウイルス感染対策の観点からハイブリット開催とし、参集が困難な状況となった場合はZoomを利用したWEB開催とします。</p>
日 時	[ 事業名 ]	<b>「わくわくNEXTチャレンジ」9月青少年事業</b>
	[ 開催場所 ]	小名浜美食ホテル 潮目交流館2号棟(イベントスペース)及び前面西側広場
	[ 事業種別 ]	公2
	[ 公益性 ]	有
	[ 対象者 ]	いわき市内の小学生3～6年生及びその保護者
	[ 事業趣旨 ]	<p>現在、AIやIoT、ドローンといった最新技術が各所にて運用が実装され、身近に感じられる社会になってきました。今後、更に技術革新が進んでいくことが予想されます。未来を生き抜く子どもたちは、この変化に対応していかなければなりません。まずは、最新技術に対し興味や関心を引き出す「きっかけ」が重要です。さらに、「きっかけ」を創出したことで、「主体性」へと繋げる一歩が必要だと考え本事業の開催に至りました。</p>
令和4年9月25日 (日)10:00～17:00	[ 事業内容 ]	<p>DigSports、IoTボール、GoCube、トイドローン、ドローンの展示の5つの体験コーナーをつくり、子供たちが最先端技術に触れ、技術に対する疑問から、理由を求めて行動するようになる「きっかけ」へ繋がります。また、参加された親御さんも一緒に体験することができる内容となっています。本事業から、子どもの主体性を育てていきます。</p>
日 時	[ 事業名 ]	<b>スポーツマッチングサイト「スポまっちいわき」2022年度推進事業</b>
	[ 開催場所 ]	いわき市内
	[ 事業種別 ]	公1
	[ 公益性 ]	有
	[ 対象者 ]	いわき市民
	[ 事業趣旨 ]	<p>いわき市にて公共施設の機能回復を全力で見直している最中、JCIIわきでも公共施設の質的価値を新たに見出そうと、2021年7月にスポーツマッチングサイト「スポまっちいわき」が作成されました。しかし、昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により広報活動に制限がかかり、登録チーム数や利用者を増加させることができていない状況です。この状況を打開すべく、本年度登録チーム数を増やしマッチングへと結びつけ公共施設を利用してもらうことで地域益へと繋がります。</p>
	[ 事業内容 ]	

2022年3月1日～  
2022年11月30日

スポーツによる人・まちづくり推進協議会及びいわき市スポーツ振興課並びに、いわき市体育協会を主体とし連携していきます。スポーツを統括している関係各諸団体から広報の協力を促すことで、スポーツ関係者や団体(チーム)への広報活動からサイトの認知度を広げていき、市民への周知へ繋げていきます。また主に各種スポーツ大会やイベント、練習等に直接足を運びチラシを配布しながら、登録を促し、丁寧に説明することで利用方法を伝えていきます。また、そこから人づてで利用の可能性のある団体を増やしていきます。また、本年度はスポーツジムにも足を運び、チラシを配布するだけでなく、密に連絡を取り合い、市内のスポーツに関するありとあらゆる情報を交換し、当サイトの利用の向上に努めます。

#### ■年間計画の実現と成果

年間計画に記載した事業を実施することができましたが、6月に予定していた青少年事業をコロナウイルス蔓延の影響から9月に変更しました。また、スポまちいわきの推進事業については各種大会、イベントが10、11月に多くあったことから当初の予定を延長して実施しました。4月例会につきましては青少年育成事業につながる研修会を行わせていただきました。事業をなぜ行うか、実施内容を説明することで、多くの会員が青少年育成事業に理解を高めて臨むことができたと考えます。9月の青少年育成事業では、4月例会の調査票をもとに事業の詳細を詰め、事前に説明会を実施することで、委員会及びメンバーの意識を高め、事業に臨むことができました。検証結果にもあるように事業に参加された保護者様からは主体性へのきっかけ創りに多くの賛同をいただくことができました。本事業から主体性への第一歩を創ることができたと考えます。また、スポまちいわきの推進事業については、年当初から各種関係する協議会、団体に協力を仰ぎ、大会の多い夏秋に、推進へとつながりました。結果目標の30件を大きく上回る40件の登録をいただくことができ、今後対戦をはじめとしたマッチングやポータルサイト化に更なる発展を期待します。

#### ■次年度以降への引継ぎ事項

本年度は青少年育成事業に向けて、研修会、事前説明会と実施し、メンバーの意識の向上へとつながるように事業を構築してまいりました。そのため、事業ではメンバーの多くが事業の理解が高い状況で臨むことができたと考えます。しかしながら、例会を研修会として実施する場合は事業内容がある程度決まった状態で説明していかないとうまくつながりません。事業とのリンクを考えて例会内容をつくる必要があります。また、事業では子どもだけでなく、保護者様にも最先端技術に触れるきっかけの創出ができました。参加者には多くの賛同をいただき、質の高い事業が実施できたと考えます。しかしながら、事業当日では事前に想定した点が困難であったり、広報がうまく伝わらず、多くの参加者を募ることができませんでした。多くの参加者を集め、公益性を高めるためにも、OBをはじめとしたJCに理解をいただける団体との連絡、協力が必要です。また、最先端技術の扱いは理屈を理解しても、動かしてみると難しいことが多く、委員会内で事前の調整が必要です。次年度では、入念な事前準備を実施するようにお願いします。スポまちいわきの推進事業については、年当初、多くの協会や団体に協力を仰ぎました。OBが在籍していることが多く、各種大会やイベントに参加させていただけたことから、多くの登録に繋がりました。直接お会いし、サイトの趣旨を説明することで、委員会の熱意を伝えることができました。今後は本年に築いた協会、団体との関係を大事にし、引き続き協力をいただけることで、本年以上の登録に繋がりに更にブラッシュアップされたサイトになっていくと考えます。

#### ■委員長所見

一年を通じ、当初の計画との変更点は記載の通り、数点ございました。しかしながら、時期、期間ともに適切な対応ができたと考えます。4月の研修会では、委員会の調査研究を発表し、実際に体験したことからメンバーが事業を考えることで、青少年育成事業に意識を高めることができました。9月の青少年育成事業では、時期を延期し、事業を深く考え構築したことから、より質の高い事業を構築することができました。また、スポまちいわきの推進事業については、期間を延長することで多くの登録を伸ばすことができました。計画と比べ、実際に運動を行うにあたり、変更点がございましたが、結果へとつなげることができました。協力団体からは次年度の協力をいただいております。今後も協力体制を重視し、運動することで事業が効率よく実施されると考えます。本年築いた各種団体との協力を大事にし、本事業から得られた引継ぎ事項から、次年度の効果的な運動につながる報告書となれば本望です。

2022年度 委員会年間活動報告書

■グループ名	地域連携委員会		■副理事長	熊田 哲也		■常任理事	
■委員会名	地域連携委員会			■委員長	長浜 靖明		
■副委員長	松本 裕亮			■副委員長	栗林 美沙		
■運営幹事	清野 仁孝			■会計幹事	小野 隆		
■委員	伊藤 康範	内山 伸一	駒木根 佳範	坂本 幸貴			
	椎名 勇喜	鈴木 果穂	永山 電視	藤井 裕士			
	松山 孝弘						

委員会設置背景と目的

委員会設置背景

①いわき市は東日本大震災、令和元年東日本台風といった様々な災害やその影響を経験しています。私たちが日頃からの防災・減災意識を醸成し、有事の際の行動や支援体制を確立することで、関係諸団体と共に安心安全なまちづくりへ繋げていく必要があります。  
②中心市街地の空洞化に加えてコロナ禍による先行きの見えない社会情勢続いています。市民が抱えている地域社会への不安感を払拭するためには、心身のよりどころとなる機会を創出し、まちににぎわいを取り戻すことが必要です。

委員会設置目的

①JCいわきが、有事の際に「頼られる組織」になるために会員の意識醸成といわき市・いわき市社会福祉協議会と連携し、時代に即した支援体制を構築することを目的とします。  
②まちに活気を取り戻すために、市民や関係諸団体と共にまちづくりを推進することで、魅力や郷土愛を創出することを目的とします。

■委員会徹底事項

出欠確認に対する返信の徹底

委員会は1時間半まで

例会・総会の委員会メンバーへの周知徹底と出席の意識付け

各種スケジュールの共有の徹底

どんな状況でも最後は楽観的に笑顔で

■開催事業

日時	[事業名] 2022年度災害組織図 策定					
	[開催場所]					
	[事業種別]	[公益性]	[対象者]	公益社団法人いわき青年会議所 正会員・いわき市・いわき市社会福祉協議会		
2022年1月1日(土) ～12月31日(土) 運用期間	[事業趣旨] 災害が起こった時に、いわきJCとしてすぐに最善の行動をするためには、常に災害に対する対応策をアップデートしていく必要があります。 2022年度のおわきJCが、いつ起こるか分からない災害の発生時に、迅速に初動がとれるように担当を明確化することを目的とします。					
	[事業内容] 2022年度災害組織図の策定 2022年度用に災害組織図を更新し作成します。災害の発生時、災害の発生が予測される時、都度災害組織図を会員に周知し、組織図に則った行動を取ります。また、災害時の迅速な行動のため、いわき市といわき市社会福祉協議会とは定期的な情報交換を行います。					
日時	[事業名] 3月例会「防災・減災を楽しく『自分事に』～防災クイズ・防災ゲーム～」					
	[開催場所] ホテルいづみや 大広間					
	[事業種別]	[公益性]	[対象者]	公益社団法人いわき青年会議所 正会員・いわき市・いわき市社会福祉協議会		

2022年3月18日(金)	[事業趣旨]	<p>いわき市は、様々な災害を経験していますが、多くの市民は防災・減災をなかなか「自分事」としてとらえられず、「他人事」になってしまっている現状があります。東日本大震災から10年以上経ったこの時期に、まずは会員一人ひとりがもう一度災害に対しての「当事者意識」を醸成させなければ、次の災害時に今までの経験が活かされない恐れがあると考えます。</p> <p>対外には、協定を締結している関係諸団体と災害時の連携を円滑にするために、顔の見える関係性を構築することを目的とします。</p> <p>対内には、災害発生時に迅速な行動がとれるように、有事の際、支援する側としての「当事者意識」を醸成することを目的とします。</p>				
	[事業内容]	<p>本事業は第一部をクイズ形式、第二部をゲーム形式とする二部構成で行いました。</p> <p>第一部ではクイズに答えながらJCIIわきの災害組織図の内容も含めた災害に関する知識を習得し、第二部では第一部で習得した知識を参考にし、災害時に支援する側としての「当事者意識」を醸成するゲームを行いました。</p> <p>また、いわき市社会福祉協議会の職員の方にもクイズやゲームに参加して頂くことで、災害時に連携する団体の方と交流を深めるとともに、考え方や姿勢の違い等も学ぶ機会としました。(いわき市危機管理部の職員の方は前日の地震の対応により欠席)</p>				
日 時	[事業名]	<b>第2回イルミエールいわき 開催要項</b>				
	[開催場所]	いわき駅前大通り【国道399線：通称30m通り】、タクシープール、他共催開催場所				
<p>点灯期間：2022年12月3日(土)～2023年1月9日(月・祝)【17:00～23:00点灯】</p> <p>設置期間：2022年10月24日(月)～2022年11月26日(土)</p> <p>撤去作業期間(予定)：2023年1月10日(月)～2023年1月31日(火)</p>	[事業種別]	<p>活かに満ちたまちづくりを進める事業</p>	[公益性]	公1	[対象者]	<p>公益社団法人いわき青年会議所 正会員・一般市民・報道関係者・ 企業全般・地域団体全般</p>
	[事業趣旨]	<p>いわき市において、少子高齢化による人口の減少と昨今のコロナ禍での行動の自粛により、街の賑わいが低下しています。市民や関係諸団体と共に、いわき市が一体となれる冬の風物詩を創り出すことで、地域間の繋がりを持つ機会を増やし、市民がまちづくりに参加できるような機会を創出し、市の活性化に繋げる必要があると考えます。</p> <p>対外には、「第2回イルミエールいわき」の開催趣旨を理解して頂き、共催をして頂ける団体を募るとともに、ご協力・ご協賛頂ける企業・団体・市民を募ることを目的とします。</p> <p>対内には、「第2回イルミエールいわき」の開催趣旨、特に他地域との共催の意義を理解してもらった上で、多くの会員に参加・協力して頂くことを目的とします。</p>				
	[事業内容]	<p>第2回イルミエールいわきの開催要項を作成し、共催団体を募り、また事業に協賛してくれる方を募りました。</p>				
日 時	[事業名]	<b>第2回イルミエールいわき クラウドファンディング及び広報宣伝</b>				
	[開催場所]	CAMPFIRE(WEB上)及びSNSも含めた宣伝媒体				
<p>2022年8月1日(月)～2022年9月20日(火)</p>	[事業種別]	<p>活かに満ちたまちづくりを進める事業</p>	[公益性]	公1	[対象者]	<p>公益社団法人いわき青年会議所 正会員・一般市民・市外の個人及び法人</p>
	[事業趣旨]	<p>「第2回イルミエールいわき」は、今回市内5か所で共同開催します。開催地域を拡大していわき市全体が一丸となって行う事業であることから、まちの主役となる市民に関心を持っていただき、共に地域の活性化に繋げていく必要があると考えます。</p> <p>対外には、「第2回イルミエールいわき」を通じて、いわき市全域を活性化していくために、事業への理解や認知度を高め、市民が参画しやすい環境を整えることを目的とします。</p> <p>対内には、クラウドファンディングの広報活動に、多くの会員に携わって頂くことを目的とします。</p>				
	[事業内容]					

		クラウドファンディングを通じて、「第2回イルミエールいわき」に対して一般市民の方からも協賛を募るとともに、SNSを併用し「第2回イルミエールいわき」の認知度上昇に努めました。			
日時	[事業名]	9月例会「実体験から学ぶ危機管理」			
2022年9月16日(金)	[開催場所]	いわき市勿来市民会館 大会議室			
	[事業種別]	他2:会員研修事業	[公益性]		[対象者] 公益社団法人いわき青年会議所正会員
	[事業趣旨]	<p>私たちは社業を行う上で、様々な危機に晒される可能性があり、それらに備え迅速な対応を行える体制が必要です。そのために、危機管理の重要性を認識し、常に有事を想定しておくことが必要であると考えます。</p> <p>有事のシミュレーションを経験することで、その経験を自身の知識とし、危機管理意識の醸成を促すことを目的とします。</p>			
	[事業内容]	<p>本事業は、第一部を体験発表形式、第二部をゲーム形式とする二部構成で行いました。</p> <p>第一部では、危機管理の重要性を再認識するために、コロナ禍で会員が実際に直面した危機を、会員全員で共有しました。</p> <p>第二部では、第一部で共有した事案をもとに、有事を具体的に想定したシミュレーションを「経験」し、その「経験」を「知識」として養うためのグループワークを行いました。</p> <p>私たちはいつ起こるか分からない危機に対し、迅速かつ的確に行動する必要があります。</p> <p>一口に「危機管理」といっても多岐にわたることから、第一部では具体的に危機に直面したときの対応を共有することで平時に想定していた危機対応への備えと、実際の危機対応で必要となったこととの相違を認識してもらいました。第二部では、第一部で共有した事案をもとに、より会員のみなさまの身近で今すぐにも起こりうる具体例を用いて模擬記者会見の準備から発表までを通して「経験」することで危機に直面した際の想像が出来、どのような備えが必要であるかを自分ごととして捉えることができる設えとしました。</p> <p>この事業を通してシミュレーションや行動指針・危機対応マニュアル策定の大切さを学び、平時からの備えが重要であることの認識を再度持ち合わせて、会員同士で危機に関する対話が生まれるようになってもらいたいと思いました。</p>			
日時	[事業名]	第2回イルミエールいわき LEDイルミネーション設置計画			
2022年8月1日(月) ～2022年9月20日(火)	[開催場所]	いわき駅前大通り【国道399線:通称30m通り】、タクシープール、他共催開催場所			
	[事業種別]	活力に満ちたまちづくりを進める事業	[公益性]	公1	[対象者] 公益社団法人いわき青年会議所正会員・一般市民・報道関係者・企業全般・地域団体全般(特に共催団体)
	[事業趣旨]	<p>各地域の個性豊かないわき市が一体となり、地域全体の活性化に繋げていくためには、まちの主役となる市民にまちづくりの関心を持っていただく必要があると考えます。</p> <p>対外には、共催団体と共に、LEDイルミネーションを安全・円滑に設置し、漏電等のリスクを出来る限り減らし、そして市民に施工中の現場を見てもらうことで点灯への期待感を持っていただくことを目的と致します。</p> <p>対内には、イルミネーションの設置を通して会員が各開催地域及び各団体と関わることで、会員のまちづくりに対する当事者意識の醸成を図ることを目的とします。</p>			
	[事業内容]	<p>「第2回イルミエールいわき」の設置計画を行いました。また、共催団体のLED設置をサポートするための体制を構築しました。</p>			

日 時	[ 事業名 ]	第2回イルミエールいわき 点灯式・スタンプラリー・フォトコンテスト			
	[ 開催場所 ]	大工町公園、いわき駅前ペDESTリアンデッキ、他共催開催場所			
	[ 事業種別 ]	活かに満ちたまちづくりを進める事業	[ 公益性 ]	公1	[ 対象者 ] 公益社団法人いわき青年会議所 正会員・一般市民・報道関係者・企業全般・地域団体全般(特に共催団体と協力団体)
点灯式・副事業: 2022年12月3日(土)	[ 事業趣旨 ]	活かに満ちたいわきの創造のためには、市全体が一丸となることが重要であるため、市民を巻き込んだ「共創によるまちづくり」が必要と考えます。 対外には、市民の皆様がまちづくりの主体であることを意識して頂くことを目的とします。 対内には、各会員が、まちづくりの一端を担う存在であることを再認識し、まちの活性化を先導する意識を醸成することを目的とします。			
スタンプラリー・フォトコンテスト(予定): 2022年12月3日(土)~2022年12月25日(日)	[ 事業内容 ]	「第2回イルミエールいわき」の食の副事業を大工町公園にて開催しました。 また、いわき駅前ペDESTリアンデッキと各共催場所をWEBで繋ぎ、点灯式を5カ所同時開催しました。 さらに、スタンプラリー・フォトコンテストを開催しました。			

#### ■年間計画の実現と成果

年間計画は、様々な変更があったにもかかわらず、最終的には変更したのも含め、ほぼ計画通りに遂行できました。また、前年度の経験から、新型コロナウイルスの影響も最小限に抑えることができました。  
防災・減災に関しては、いわき市社会福祉協議会(いわき市は参加予定だったが前日の地震により欠席)と、ゲーム形式で事業を行うことで、顔の見える関係構築の一助となったと考えます。  
「第2回イルミエールいわき」に関しては、各地と共催を行うことで、今までいわき青年会議所のみで行ってきた事業が、次のステップ(段階)に踏み出せたと考えます。また、それによりいわきの冬の風物詩としての認知度も上昇し、地域の方々を巻き込みながら事業を創出することができたと考えます。

#### ■次年度以降への引継ぎ事項

災害協定先であるいわき市や社会福祉協議会との顔の見える関係づくりに関しては、1度いわき市社会福祉協議会の方に例会に参加して頂いただけとなり、足りない部分がありました。次年度以降は協定先と共に公開委員会の開催や、協定先の事業等に参加していく必要があると考えます。  
イルミエールいわきに関しては、詳細な全体工程の作成が必要だったと考えます。特に、行政とのやり取りに関しては、担当者変更など不測の事態もあり、余裕を持った工程の作成の必要性を感じました。また、共催先も存在する為、共催団体との工程の共有の必要性も感じました。  
共催に関しては、次年度以降は共催先に任せられる部分も多くていけないといけませんと考えます。今年度は、共催先のLED設置計画にも関わる場面があり、多く時間がとられました。  
クラウドファンディングに関しては、前年度の引継ぎを活かし、電話掛けを多用した結果、目標を達成することができました。しかしながら、目新しさが重要であるクラウドファンディングの特性上、同じ内容で繰り返したとしても、成功する可能性は低いと考えます。  
協賛に関しては、リストの精査等も行い、2019年度並みの協賛を得ることができました。しかし、協賛に関わったメンバーの多くは、58年度組より上の年代であり今後卒業による影響が出てくると考えます。今年度の協賛に関わったメンバーの多くは、次年度・次々年度までは現役会員であるため、次年度中には、若い年代への協賛活動への引継ぎが必要と考えます。  
最後にイルミエールいわきに必要マンパワーに関しては、他の委員会にも横断的に関わって頂く構造も考えていけないといけませんと考えます。特に新入会員にオブザーブとして、積極的に事業に関わってもらう必要があると感じました。

#### ■委員長所見

防災・減災に関しては、いわきJCや会員個人個人の「当事者意識の醸成」が最重要であると考え、事業に取り組みました。しかし、今年度はそのきっかけづくりを行ったに過ぎず、次年度以降も「意識の継続・向上」に関わる事業を行って頂きたいと思えます。また、災害協定先との知識量の差は否めず、JCいわきとしても知識量の向上に努めていけないといけませんと考えます。  
イルミエールいわきに関しては、5カ所共催で新たなステップに踏み出したとともに、クラウドファンディング等の併用により事業の認知度向上にもつながったと考えます。但し、次年度以降継続・拡大していくためには、前年度作成したフローや今年度作成したストーリー設計を元に、必要な時に必要なことを確実に実行していく必要があります。また、金銭的にも人員的にも、次年度以降、未来の事業の姿を考えた事業構築を行っていかないと、継続させていくのが難しいと考えます。そのためには、次年度以降、少人数に責任・作業が集中しないような委員会内での組織体制づくりに努めるとともに、他委員会との連携体制の構築も行う必要があると考えます。